

主体的に自ら課題解決を目指す生徒の育成 —課題チェックシートの活用と合理的な課題解決の活動を通して—

授業実践:中学校第3学年「武道 剣道」

特別研修員 保健体育 小林武瑠(中学校教諭)



生徒の実態



教師の願い



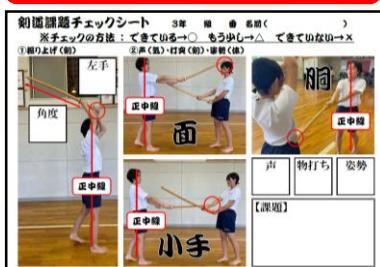
自分たちの力で合理的な課題解決の方法を考え取り組むことを難しく感じている。

生徒が主体となり、自分たちの力で合理的な課題解決ができるようになってほしい。

手立て① 課題チェックシートの活用

課題把握の場面

見るポイントの焦点化(班活動)



班の仲間にチェックしてもらい、どこができるていて、どこができるてないかを伝え合う。

課題を伝え合う活動(班活動)



振り上げたときの木刀の角度が低いから、もう少し高くしたほうがいいよ。

動画との比較(ICTの活用)



課題チェックシートと撮影した動きを見比べて、自分の課題が分かった。

手立て② 合理的な課題解決の活動

課題解決の場面

課題に応じた練習(班活動)



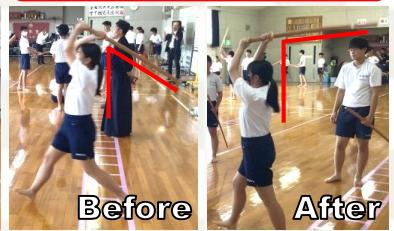
振り上げのときに木刀に当たらないようにしてごらん。鏡も見ながらやってみよう。

練習方法の共有(全体)



この練習はどんな練習ですか?

生徒の変容(Before・After)



【Aさんの課題】振り上げたときに木刀の角度が下がってしまう。

振り上げたときに木刀の角度が下がらないようになった。

教師が“させる”授業から、生徒が“する”授業へ

成
果

課題チェックシートは、自分や仲間の課題を見付けたり、合理的な課題解決の見通しをもたせたりするためのツールとして有効であった。

課
題

今後は、本研究の授業の流れをベースとし、他種目においても効果的に活用できるかを検証していく必要がある。